



愛隣幼稚園

園だより

.....21.11月

運動会は3日間

やっと運動会が終わりました。今日から11月ですが、遠足はこれからです。昨年に続き、今年もやはり例年通りとはいかないようです。もう、コロナ前の生活に戻ることはないのだろうか？戻れる事を期待して、今の生活にただ我慢する日々を送っていいのだろうか？子どもたちの園生活も、新しい生活様式へ転換することを受け入れつつ、その中でも愛隣らしくあり続けるために、もっと積極的な思考で園生活を創造していくことが求められているのではないだろうか？園長の悩みは続いています。

さて、そんなわけで今年の運動会も新しい開催方法を試みることとなりました。“今年の運動会をどうするのか？”これについて職員間で話し合いをした頃は、緊急事態宣言の只中でした。9月の終わりに本当にこれが解除されるのか否か、確実なことは誰にもわからない、という状況でした。園生活もいつも通りにはならず、みんなで楽しみにして張り切って取り組む運動会に向かう生活をなかなか始められない。そのような中で、予定された運動会の日だけが変わらずにやってきたとしたら、子どもたちを、運動会をするために駆り立てるようなことになりはしないだろうか。「運動会」はお家の方にとってはその日1日の園行事ですが、子どもたちにとっては「運動会」という大きなまとまりをもった9月から10月の園生活そのものです。「運動会」一色になる園生活の中で、子どもたちは様々な経験をします。【初めての事への挑戦】【仲間と】【力を合わせて】【勝ったり負けたり揺れる気持ち】【諦めない】【悔しい】【力いっぱい】【ひとり一人違っている】【役割をもって張り切って】【頑張っている仲間や大きい組への憧れ】【緊張感】【爽快感】【充実感】【幼稚園のみんなが仲間】・・・事実、今年もたったひと月の間に子どもたちはこんなに多くのことを経験しています。きっとこれだけではありません。そして年少、年中の子どもたちと、年長の子どもたちとは経験することは違い、同じ年齢でもそれぞれに違っています。だから、子どもたちを駆り立ててただ「運動会」をすればいいということにはならない訳です。職員間で協議した結果、コロナ2年目の愛隣の運動会は、3日に分けて開催しました。子どもも大人も長時間、密にならないように、応援の人数も1家庭1人までの制限を設けました。（ご協力をありがとうございました。）その上で、3日間は競技ごとの開催としました。子どもたちには毎日が運動会。お家の皆様にも3日間も通っていただきました。クラスごとに分ければご家庭から複数名の参観者も可能でした。3日間も幼稚園に来る必要もありませんでした。しかし、私たちが子どもたちに経験してほしいと願ったことは、先に挙げたいくつもの経験です。「運動会」一色の生活の最後のハレの日が、クラスごとに行う「運動会」では、これまでの生活も台無しになってしまいます。たんぼ組がいて、ばら組がいて、もり組がいるから愛隣の「運動会」です。みんながいる「運動会」だから、これまで経験してきたことを子どもたち自身が実感できる。手応えを感じることができるのです。そしてお家の皆さんには我が子だけでなく、愛隣っ子それぞれの雄姿を見ていただきたい。愛隣の子もたちみんなの応援団になっていただきたいのです。

来年こそはいつもの・・・そう願う園長ですから、新しい生活様式との葛藤は続きそうです。